

大阪大学 博士課程教育リーディングプログラム 超域イノベーション博士課程プログラム Basic コース

教 育 目 標
ディプロマ・ポリシー
カリキュラム・ポリシー
アドミッション・ポリシー

2020 年度版

本冊子は大阪大学超域イノベーション博士課程プログラムが Basic コースにおいて目指している教育について、プログラムでの教育を通じて最終的に育成しようとしている人材像やそのような人材が求められている社会的な背景を**教育目標**として示した上で、コースの修了により履修生が修得できる知識やスキル、力量 (**ディプロマ・ポリシー**)、履修生をそれらの修得に導いていくためのカリキュラムやコースワークの基本構成 (**カリキュラム・ポリシー**)、それらの学修に適合した者を履修生として受け入れる際の要件とその判定についての考え方 (**アドミッション・ポリシー**) を示しています。Basic コースの履修を検討するに際しては、この冊子をよく読んでください。

大阪大学 博士課程リーディングプログラム 「超域イノベーション博士課程プログラム」

教育目標

大阪大学「超域イノベーション博士課程プログラム」^{*1}は、社会における複雑で困難な状況に対して“あるべきすがた”を着想し、新たな知の探求や知と知の融合を構想することにより、新たな価値を創り出す取り組みを先導できる、すなわち、社会システムの変革に至るイノベーションを様々な境域を超えて導いていくことができる高度人材の養成を教育目標としています。

今日の社会では、科学技術や産業の進展のもと、様々なものやことが相互につながる連鎖により世の中や生活が従来とは異なる水準で豊かになる未来が展望される一方で、貧困や飢餓、福祉や教育、生活環境や環境問題、働きがいや経済成長、不平等の解消、都市や地球の持続可能性、平和と公正など、従来は個別的に取り上げられてきた各種の課題を包括的に取り上げ、それらの関係性をも含めた解決を目指そうとする動きも現れています。それらの背景には、社会における種々の取り組みが個々に分断された領域の中で行われ、専らそれぞれの高度化や効率化が進んできたこと、また、それらを支えてきた知の営みも専門分化のもとで領域毎の探求や近接する領域間での融合がその進展のしくみであったことの限界が顕わになっていて、異次元のイノベーションに向けては様々な境域の間の断絶こそが根源的な障壁になっている現実が横たわっています。この現実を克服していく道筋として、社会における状況を俯瞰した上で、その眺望の中から斬新な課題を横断的に見つけ出し、その解決により新たな価値を創出することに向けて、統合的な知を創造していく「社会と知の統合」が求められようとしています。

本プログラムでは、上記の動向を見据えて、大阪大学の教育目標^{*2}のもとで、在籍研究科での専門教育に加えて「社会と知の統合」に関わる独自のコースワークを提供することにより、社会システムを変革へと導く取り組みに知的体力と勇気を持って参画し、社会での実践を経て、やがては自らそれを先導する「知のプロフェッショナル」を養成することを目指しています。ここでの「プロフェッショナル」という言葉には、当該分野の知識やスキルに長けている専門家(エキスパート)に留まらず、それぞれの知を基盤としつつ他の専門家とも連携しながら社会で活躍できる人材、さらに普遍的な意味合いでの「知」の力に立脚して活躍できる人材という意味を込めています。

本プログラムは、基本的には5年制博士課程^{*3}(博士前期課程・博士後期課程の区分制および5年一貫制博士課程。一般には4年制学部卒業者が進学する。)に在籍する学生を対象とした博士課程教育リーディングプログラム^{*4}の一つとして設計されており、上記の目標を段階的に具現化するために、下記の2つのコースから編成されています。

Basic コース：5年制博士課程の1年次から2年次の2年間^{*5}において、社会における状況を俯瞰して課題を発見する力、課題を統合的に解決していく力に関わる基盤を養う^{*6}

Advanced コース：5年制博士課程の3年次から5年次の3年間において、Basic コースもしくはそれに相当する基盤に社会での実践に関わる基盤を重ねながら、一連の基盤を深化させ、博士論文研究ともつなぎ合わせていくことにより、社会と知の統合を推進するための総合力を養う

なお、医歯薬系等の4年制博士課程^{*3}(一般には6年制学部卒業者が進学する。)に在籍する学生に対しては、Advanced コースを2年間で履修することにより、本プログラムの2つのコースを4年間で修了できるように設計されています。また、修士課程^{*3}に在籍する学生、5年制博士課程に在籍するものの、博士号の取得を目指さない者については、準履修生として、Basic コースに限っての履修ができます。履修生における準履修生の区分に対して、5年制博士課程もしくは4年制博士課程に在籍し、Advanced コースへの進級のもとでの社会と知の統合に関わるテーマでの博士号の取得を目指そうとして Basic コースを履修する者を本履修生と称します。

本プログラム Basic コースでは、大阪大学のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー^{*2}のもとに、3つのポリシーをそれぞれ以下のように定めています。

ディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）

Basic コースでは、在籍研究科の博士前期課程等での教育研究を通じて培われる**専門力**を基盤としつつ、研究科横断型・副専攻方式のコースワークを通じて、社会における状況を俯瞰して課題を発見する力、課題を統合的に解決する力に関わる基盤となる**高度な汎用力**を修得することを修了認定の要件とします。

具体的には、以下に掲げる、**他者との適切な関係を形成し、ものごとを俯瞰し、自律的に行動していくための基礎的能力**を修得した学生に本コースの修了を認定し、その証として大学院副専攻プログラム「超域イノベーション副専攻プログラム」もしくは大学院等高度副プログラム「超域イノベーション高度副プログラム」の修了認定書を交付します^{※6}。

- 自らの専門の内容をその社会的・公共的意義と他の専門との関係のもとで明快に説明できる力
- 他者の論理や専門によって立つ背景や文脈をも踏まえて、具体的な課題の骨格や要点を相対的かつ柔軟に把握する力
- 社会における課題の具体的な解決に向けて、立場や専門を超えた適切な問いかけを行い、独創的な議論を展開する力
- 各方面からの関係者と協働しながら、多様な専門知を交差させつつ、課題解決を志向する取り組みに建設的に参画する力

なお、修了判定は所定単位の取得の有無により行います。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

Basic コースでは、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材像に対して、教育内容を、社会における状況を俯瞰するための基盤としての Knowledge、専門知に基づく社会での活動を円滑に行うための Skills、社会課題に関してイノベーションを導いていくための Integration に大別することにより、教育目標にしたがった体系的なコースワークを大学院副専攻プログラム「超域イノベーション副専攻プログラム」・大学院等高度副プログラム「超域イノベーション高度副プログラム」として整備しています。

コースワークは、Knowledge に関わる**知識・教養系科目群**、Skills に関わる**展開力系科目群**、一連の基礎の上に Integration に直結する力を養っていく**コア科目群**からなる**ラーニング科目群**から構成し、独自に多数の科目を提供します。各科目では、学生が主体的に学びに参画するアクティブラーニングの手法を取り入れ、特徴的な課題についての学習を通じて当該分野が共有しているエッセンスや固有の考え方を修得していくモジュール方式による授業を展開します。また、社会と知の統合に関わるさらに深い独自の学修機会として、上記の各科目群での学修のもとで課題発見から実践に至る各種の活動を通じて社会との関わりを具体化していく**アクティビティ科目群**を提供します。さらに、一連のコースワークに加えて、それらの学修効果をより確かなものにするために、履修生の発案等による社会課題に関わる取り組み（**アクティビティ・プラス**）を審査の上で支援する機会を提供します。

なお、上記の科目群のうち、アクティビティ科目群は本履修生のみを対象とします。準履修生はそれを除く部分のコースワークを受けることになります。

本履修生のうち、特に優秀である者については、日本学術振興会の特別研究員に導いていくために、選考の上で特待生と位置付けて、社会と知の統合に関わる円滑な学修を促進するための経済的支援を実施します。なお、特待生の資格は研究活動や修学の状況により失効することがあります。

アドミッション・ポリシー（履修生受入の方針）

Basic コースでは、教育目標に掲げる人材へと成長しようとする志とポテンシャルを持つ大学院生として、下記の資質と意欲を持つ者を本コースの準履修生として受け入れます。

- 大阪大学のいずれかの研究科における5年制博士課程あるいは4年制博士課程の1年次から2年次、もしくは、修士課程での専門教育を通じて、当該分野のプロフェッショナルに成長したいという志とそれに足る基礎的な学力を有している
- 社会における課題に具体的な関心を持ち、その解決に関わっていききたいという意志を有している

- 未解決の課題に対して他者との対話や協働を通じて包括的に取り組もうとする態度を有している

また、上記に加えて下記の資質と意欲を持つ者を本コースの本履修生として受け入れます。

- 大阪大学のいずれかの大学院における5年制博士課程の1年次から2年次、もしくは、4年制博士課程の1年次から2年次において社会と知の統合に関わる修士論文研究もしくは博士論文研究に取り組み、Basicコースの修了後は引き続きAdvancedコースに進学して博士号を取得しようとする志とそれに足る学力を有している

準履修生は、5年制博士課程、4年制博士課程および修士課程の1年次学生を応募対象として選考します^{※3}。準履修生の選考では、出願書類審査と面接審査により、上記の資質と意欲を審査します。

本履修生は、5年制博士課程および4年制博士課程の1年次学生を応募対象として選考します^{※3}。本履修生の選考では、準履修生の選考での各審査に、複数の書類（出願者による研究構想に関する計画書、指導教員による評価書としての推薦書、外国語の運用能力の審査）および、試験（筆記、グループディスカッション、口頭試問）を加味して選抜します。外国語の運用能力は、外国語能力判定テストのスコア、授業での成績、外国語での論文等の執筆経験等により審査します。

※1 2018年度以降の超域イノベーション博士課程プログラムの内容は、2012年度からの6年間の教育活動の成果、この間に浮かび上がってきた社会情勢や高度人材への要請の変化などを踏まえて、2017年度以前のそれから改定されたものとなっています。

※2 大阪大学および各研究科等の教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーについては、大阪大学のホームページに掲載されている下記のファイルを参照してください。

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/announcement/files/program_graduateschool.pdf

※3 5年制博士課程、4年制博士課程と修士課程のそれぞれに該当する研究科や専攻の範囲は募集要項を参照してください。

※4 博士課程教育リーディングプログラムについては、大阪大学大学院学則の第5条の6に規定されています。

※5 Basicコースにおいては、履修生の選抜・選考を博士前期課程への入学後に実施するため、その履修期間は実際には2年間よりも短くなります。

※6 大学院副専攻プログラム「超域イノベーション副専攻プログラム」もしくは大学院等高度副プログラム「超域イノベーション高度副プログラム」の修了認定証の交付は、5年制博士課程を履修する者については博士前期課程修了時に、4年制博士課程を履修する者については博士課程修了時になります。